

# 大阪大学図書館報

Vol. 6. No. 1. Jan. 1972

## 医学情報について

宮 地 徹

医学情報の量がいかに莫大になりつゝあるかということは、例えば Index Medicus に収載される論文が1964年の約14万4千件から、1969年の21万件強となって、5年間で約1.5倍弱になっているのでもわかる。これらをカバーするものに、国際的には上記の Index Medicus (約2,300種の雑誌) 及び Excerpta Medica (抄録つき) がある。いずれも、この館報5巻5号で千原教授が Chemical Abstracts についてのべておられるように、編集や印刷に電算機を用い、前者は毎月800頁以上のものを1回出し、1年毎に時を移さず約9,000頁の物件及び人名索引の累積版を出している。Excerpta Medicaは約3,300種の雑誌を抄録しているが、そのうち1,000種くらいは Index Medicusに入っていないもので、解剖学から環境衛生学まで39部門にわけて専門別抄録誌として発行している。いずれも世界の医学的文献情報をえるためには欠くことができない。Index Medicus はアメリカ国立医学図書館(NLM)から、Excerpta Medica はオランダの財団からであるが、同国政府の援助も大きい。わが国では、1970年来日本科学技術情報センターで Index Medicus のテープ (MEDLARS = Medical Literature Analysis and Retrieval System) を入手して試験的に情報検索を始め、これに入っているが、わが国にはない雑誌約900種をセンターで購入、阪大・東大・慶応の医学図書館に分置して、医学情報の機械化態勢を整えている (阪大へは300種分置)。このように、人間にとって最も大切な生命に直接に関係する研究分野の情報に、わが国では始めて人間のつくる社会の援助がおこなわれようとしている。

Index Medicus には130種、Excerpta Medica には140種の日本文献が入っているが、わが国の医学情報の伝達は、1903年以来、医学中央雑誌によっておこなわれてきた。実に広く、医学、歯学、薬学及びその隣接領域、そして外国語で発行されているものも含めて1,300種以上のわが国の雑誌をカバーしている。これが全くの私的事業として70年以上もおこなわれてきたことは驚くほかはなく、たゆまずわが国の医学の進歩を支えてきた。その発行に心血を注いでこられた尼子先生一家及びこれを助けてきた人々に深い敬意と感謝を捧げたい。しかし、医学的情報の洪水の前には、手工業的におこなわれているこの仕事は、当然のことながら索引の発行が1年半近くおくれ、抄録の time lag も8カ月近くある。そこで従来事業を生かしながら、機械化するという方向が考えられる。日本医学図書館協会の中心的メンバーである慶大医学情報センターの関係者が主となって、財団法人国際医学情報研究所を発足させようとしてい

るのは、この点からも心強いことで、日本科学技術情報センターのMEDLARSの拡大ともうまくリンクして医学中央雑誌の機械化がおこなわれることを切望したい。近く設立される公害研究所からの公害情報、上記2センターからの特殊な情報、例えば癌、動脈硬化、脳出血、薬剤の副作用など、さらに注文による情報などが提供される日もそう遠くない。なお、昨年来、医薬情報センターから日本医薬文献週報というコンテンツサービスが出るようになった。週を追って多くの雑誌が入れられ、time lagは1カ月以下ということで、重宝なものができたものである。

ここに付け加えておきたいのは、情報伝達の媒体に上記の日本医学図書館協会があるということ、わが国の研究社会での情報網及び相互協力という点では、他に比をみないといえる。この協会に加わっている医学図書館（蔵書数その他で一定の資格が必要）、さらにNLMを通して、あらゆる医学的文献を入手することができる。このために一部ではテレックスで結ばれているが、近いうちにこの全国網ができるであろう。また、慶応、阪大などの図書館では、特定の主題に関する医学文献を収集して研究者を助ける参考業務がおこなわれている。これは、他の領域では殆んどおこなわれず、また、文献の検索は研究者みずからがおこなうべきものであるという考えもあるが、細分化した研究と情報の洪水の前には、情報の機械化とともに専門家を煩わすという方向に進まざるをえない。立派な参考係が育つには、研究者の温い協力が何よりも大切である。

以上においてIndex Medicus, Excerpta Medica, 医学中央雑誌などをあげて医学的情報の大きい柱についてのべたが、医学は、歯学・薬学はいうまでもなく、物理学・化学・生物学などの関連領域が広い（それで医学的という言葉を使った）ので、Biological Abstracts, Chemical Abstracts, その他いくつかの二次刊行物が必要である。また、医学中央雑誌の如く、国際的には一地域の文献を取扱う抄録誌や専門化したものも発達していて、世界中では約400種ほどが数えられる。これらには、Index MedicusやExcerpta Medicaでカバーされていないものもあるので、できるだけ多く備えて医学的情報の伝達を円滑にすべきであろう。

(医学部教授)

## フランス政府から 図書追加寄贈申込み

昨年5月、仏政府から2,700冊の学術書の寄贈を受けたことは本報Vol.5, No.3でお知らせしたが、このたび仏大使館科学参事官マルク・デュピイ氏から西日本におけるフランス学術書のセンターとしての阪大附属図書館に対し、科学技術新刊書を中心に継続して寄贈する旨申込みがあった。これらの図書は前回同様本館、中之島分館、吹田分館、理学部図書室に分置する予定である。

## 同和問題図書の利用好調

本館では、昭和45年春以来、同和問題関係図書の充実につとめてきたが、本年度末にはその合計が、カレント雑誌5点（バックナンバー4点）、単行書125冊、購入金額にして40万円余になる予定である。

今般、これらの利用度を調べたが、年間1冊当たり平均貸出回数が4回余になった。ちなみに一般開架図書のそれは1.2回、指定図書(文・法・経のみ)は0.97回であるので、同和問題図書の利用度はよいと言える。

なお、中之島分館、吹田分館でも、入門・概論的なものを中心にそれぞれ収集中であり、新年度までには閲覧室に配架することになる。

## 電子計算機利用技術研修終わる

昨年6月16日から本館視聴覚室で実施されてきた事務局と本館共催の「電子計算機利用技術研修(コボル)」は、さる12月8日をもって終了した。

この間、毎週1回(24回、計52時間)長期間にわたり、講義・演習・見学等懇切丁寧にご指導くださった講師高井幸信氏(富士通株式会社大阪営業所第二SE課)に感謝の意を表するとともに、熱心に受講された皆さんの今後の活躍を期待する。

なお、この研修修了者は41名(うち図書館職員9名)であった。

### 学生希望図書 一本館一

昭和47年1月17日現在、受入済みのもの。  
 昭和史発掘 1-11 松本清張 文芸春秋社  
 宗教から科学へ B・ラッセル 津田元一郎  
 訳 荒地出版  
 民事判例研究 第2巻1:総則・物権 星野  
 英一 有斐閣  
 レイテ戦記 大岡昇平 中央公論社  
 論理学 上田泰治 創文社  
 企業形態論 占部都美 白桃書房  
 ナット・ターナーの告白 S・スタイロン  
 大橋吉之輔 訳 河出書房新社  
 ゲーテ全集 第4巻 人文書院  
 トーマス・マン全集 第6巻 新潮社  
 芸術論集 加藤周一 岩波書店  
 少林寺拳法—その思想と技術— 宗道臣  
 日貿出版社  
 海の沈黙—星への歩み— ヴェルコール  
 河野与一 他訳(岩波現代叢書) 岩波書店  
 天声人語 英和対照 第12-14集 朝日新聞  
 論説委員室 朝日新聞社  
 機械の神話—技術と人類の発達—L・マンフ  
 ォード 樋口清 訳 河出書房新社  
 ゲオルク・ビューヒナー全集(全一巻)  
 手塚富雄 他監 河出書房新社  
 海 47年新年号特集号(雑誌) 中央公論社  
 一般国家学 H・ケルゼン 清宮四郎 訳  
 岩波書店  
 西脇順三郎全集 第4巻 筑摩書房

高橋和巳作品集 第2巻 河出書房新社  
 マルクス主義経済学講座 上・下 見田石介  
 他監修 新日本出版  
 価格理論 I(現代経済学1) 今井賢一 他  
 岩波書店  
 反トラストの法と経済理論 E・Mシンガー  
 上野裕也 他訳 ぺりかん社  
 経済成長(リーディングス・日本経済論4)  
 村上泰亮 編 日本経済新聞社  
 現代心理学 全6巻 白水社  
 刑法の論点 上・下(法学論点叢書) 井上  
 正治 法学書院  
 例解企業会計原則入門(新版) 黒沢 清 他  
 中央経済社  
 民事訴訟法の論点(法学論点叢書) 染野義信  
 法学書院  
 貨幣・利子および価格—貨幣理論と価値理論  
 の統合一 D・パティンケン 貞木展生 訳  
 勁草書房  
 例解工業簿記 溝口一雄 中央経済社  
 量子力学 I, II ランダウ・リフシツ  
 佐々木 健 他 東京図書  
 数学の基礎 島内剛一(日評数学選書)  
 日本評論社  
 数理学の諸問題(数学講座17) 赤 撰也  
 他 筑摩書房  
 定本 仏像一心とかたち— 望月信成 他  
 日本放送出版協会

### 教官著作寄贈図書

- |   |   |
|---|---|
| 一本館一<br>岸本通夫(教・教授)<br>ヨーロッパ文学とラテン中世<br>昭.46 みすず書房 | 立入 弘(医・教授)<br>診療放射線技術 上巻 昭.46 南江堂<br>谷向 弘(医・講師)<br>向精神薬の使い方—診断から処方まで—<br>昭.46 南江堂 |
| 一中之島分館一<br>石田 修(医・講師)<br>脈管の造影診断 昭.47 南山堂         | 一理学部図書室一<br>村田一郎(理・教授)<br>有機化学 下巻 昭.47 広川書店                                       |

### 本館受人参考図書

- |  |  |
|--|--|
| 12・1月に受入済みのもの<br>日本の図書館 1970 日本図書館協会<br>わが国における学術情報政策に関する資料集<br>細谷新治編 昭46<br>The Japanese Press 1917 日本新聞協会<br>人文科学の名著 淡野安太郎編 毎日新聞社<br>四書索引(本文編・索引編) 森本角蔵編<br>五経索引(〃 〃) 〃<br>宗教辞典—増補版 梅田義彦編著 堀書店<br>東洋学文献類目 1969年度 京大人文研<br>国勢総覧 第42版 国勢協会編 昭46<br>人事興信録 上下巻 第26版 昭46<br>日本政治学文献目録 No.2—5(1966~1969)<br>福村出版<br>日本国会年鑑 1971 国会年鑑編纂会<br>出入国管理統計年報 昭45 法務省<br>経済学二次文献総目録 経済資料協議会編<br>経済学ガイドブック 増田二郎他編<br>M I S (マネジメント・インフォメーション<br>・システム)ハンドブック 日本能率協会<br>分析化学便覧 改訂2版 日本分析化学会<br>化学英語の活用辞典—化学の論文を英語で書<br>くための— 千原秀昭編 化学同人社<br>曲線・グラフ総覧 和田秀三他編 聖文社 | 医学略語辞典 野田喜代一等著 金原出版<br>環境公害文献集 第3~4集 科学技術情報<br>センター編 昭46<br>JISハンドブッケー情報処理 日本規格協会<br>JIS用語集—総集編 1968 日本規格協会<br>JIS用語辞典—基本・一般— 日本規格協会<br>省力のための工場自動化機器集成<br>建設産業調査会<br>機械工学必携 馬場秋次郎編 三省堂<br>通信・電子工学必携 谷村功編 三省堂<br>電気工学必携 蓮見孝雄編 三省堂<br>国際電気通信業務便覧 1970 国際電信電話<br>電気技術要覧 1971年度版<br>通産技術資料調査会<br>Klein's Comprehensive Etimological Dic-<br>tionary of the English Language 1971<br>日朝小辞典 宋技学・孫普滢共編 大学書林<br>和露大辞典—最新— C.B.Неверов 等編<br>記録の百科事典 (日本一編・世界一編)<br>竹内書店<br>現代朝鮮語辞典 天理大学朝鮮学科研究室編<br>類語辞典 広田栄太郎・鈴木策三共編<br>東京堂出版 |
|--|--|

## 会 議

### —JICST—医学情報委員会—第12回—

46.10.19(火) 於 日本科学技術情報センター

本学出席者 整理課長

- 〔議題〕 ①昭和46年度MEDLARS (医学文献分析検索システム) 検索サービス実験の進  
行状況について  
②J I C S T電算機使用によるMEDLARS検索プログラムの作成状況について  
③昭和47年度MEDLARS検索サービスの計画について

また、47年度以降、本格的サービス活動開始後の課題（有償とするか無償とするか）について討議された。

——ハワイ大学図書館長ウエスト氏との懇談会——

46.11.22(月) 於 京大附属図書館

参加者 近畿地区から30名, 本学 田中掛長

アメリカ図書館協会代表として来日されたウエスト氏が「大学図書館についての展望」と題して講演した。内容は、①情報をいかに伝達するか ②予算をいかに獲得するか ③いかにして有能な図書館員を養成するか、であり、参加者と活発な質疑が交わされた。

——分館長会議——

46.12.18(土) 13.30~15.30 於 本館館長室

〔議題〕 昭和47年予算要求について：前回11月20日(土)に引き続いて協議が行なわれた。

——中之島分館運営委員会—第39回——

46.12.14(火) 2.00~3.00 於 会議室

〔報告〕 ①運営委員の交替 ②中之島分館事務組織の変更 ③昭和46年度維持費の使用状況 ④第88回大阪地区医学図書館協議会例会

〔協議〕 ①年末年始の休館：閲覧室および書庫内の整理のため、12月27日(月)から翌年1月6日(木)まで休館と決定 ②ゼロックスの複写経費：剰余金ができた場合、その用途については、利用者への還元を配慮することで分館長および業務主任に一任と決定 ③次回運営委員会の開催

——中之島分館運営委員会—第40回——

47.1.10(月) 4.00~4.30 於 会議室

任期満了に伴う次期分館長の改選：附属図書館中之島分館長選考規程に従い、同分館運営委員9名(欠席者2名)による次期分館長の選挙の結果、坂本幸哉現分館長が再選された、

——工学部図書委員会——

46.12.7(火) 15.30~17.00 於 吹田分館会議室

〔報告〕 ①外貨変動相場制移行にともなう外国書の値下げについて ②マイクロフィッシュ・リーダープリンターの納入について ③視聴覚ホール映写会の定期的(毎週金曜日)開催について 〔議事〕 ①今年度購入の学生用一般図書の選定(第一次最終案)について：原案どおり承認、438冊、予定金額832,940円 ②委任経理金購入の参考図書の選定について：戦前からの奨学寄附金約52万円を図書購入にあてる旨工学部長より申し出があり、百科事典2点(Britannica, Brockhaus) および Elsevier社 (Amsterdam) 出版の polylingual の専門用語辞典8点を選

